



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.63  
六甲山の霧  
/平木 隆年  
2008年6月発行



自然保護センターの「自動霧水補集装置」

## 第63回テーマ:六甲山の霧

### 講演内容

- 兵庫県、日本、東アジア  
における酸性雨の観測体制
- 酸性雨とは
- 六甲山における霧の観測事情

実施日：平成20年6月21日（土）  
午後1時～3時45分  
場 所：六甲山自然保護センター



講師：平木 隆年さん  
プロフィール

1950年神戸出身。昭和47年より当時の兵庫県公害研究所に配属され、現在まで兵庫県の大気環境について調査研究を行っている。主な研究分野は酸性雨の科学的な側面。

### テーマにぴったり“霧の六甲山”

梅雨時で、山麓では朝から小雨がぱらついていました。六甲山を登ると、あたり一面霧に包まれました。まさに、講演テーマ「六甲山の霧」にぴったりの天候です。午前中の環境整備は14名が参加し、二つ池周辺で150個近いモリアオガエルの卵塊を観察しました。



モリアオガエルの卵塊

### 「普遍的事実を探究したい」と平木さん

兵庫県立健康環境科学センターの平木さんにお話をお聞きしました。平木さんは、昭和47年から現在まで、兵庫県の大気汚染に関するデータを収集し、研究を続けておられます。科学者として普遍的な事実を突き詰めたいという思いが強く、「少しでも科学に役立つことをしたい」と、六甲山では県の事業として13年間調査を続けています。平成14年には、六甲山で観測された樹雨現象を解析し、スギ樹冠にもたらされる霧水沈着の時間変動についての論文を著しておられます。

今回は、理系以外の参加者にも分かりやすいように、実際に環境教育用の大気沈着物観察セットの使い方も解説していただきました。参加者は好奇心を強めて器具をのぞき込んでいました。

### 自然保護センターの片隅にある観測基地

六甲山では霧が出やすく、とりわけ鉢巻展望台のあたりから発生しています。自然保護センターの西側に自動霧水補集装置を常設して、自動観測しています。六甲山の霧は、雨よりも溶け込んでいる化学物質の量が10倍多いとのこと。雨と霧を比べると雨の方がきれいだといえます。蒸発、降水、流

水という水循環のサイクルで考えると、雨は蒸発の次に当たるので、比較的汚れていません。

ただ、大気からの化学物質に注意が必要なのは、雨や霧の時だけではなくありません。晴れている時にも、大気からホコリのようなものが落ちてきています。

### 六甲山から地球環境に目を広げたい

自然保護センターの敷地で、霧水のデータを継続的に収集されていることを始めて知りました。霧水から大気汚染の様子が分かることも学びました。


酸性雨同様、越境大気汚染のひとつとして中国からやってくる黄砂の被害も気になります。六甲山は、都市に密接しているので、大気汚染の影響が顕著に出る場所だそうです。日本でも、欧米並の酸性雨が観測されているとのことなので、今回の講演を期に、大気汚染の動向に関心を向けたいと思いました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

### 参加の感想 谷口 日出二さん

神戸生まれで六甲山麓に住んでいます。六甲山の霧については、高校時代にグラウンドが霧で使えなくなったのを思い出します。この霧が、なんと降雨以上に大気汚染物質などを取り込んでおり、神秘的なイメージに反して、人為的な影響を受けているとお話でした。つまり、霧は六甲山の空気の清浄の役割を担っているとも言えそうです。平木さんは長期間、六甲山で雨や霧を調査・分析されています。蓄積されたデータによって、科学的に環境の変化と、様々な現象を説明していただきました。

身近な自然環境を調べ、理解することが、グローバルな環境問題を解決する手がかりになると再認識しました。自然には不思議がいっぱいあります。興味は尽きません。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館  
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】  
コベルコ環境保全基金、  
公益信託自然保護ボランティアファンド、  
公益信託 TaKaRa ハーモニストファンド